

(別紙1)

## 事業報告書

事業名	オンライン利用のアニマルセラピーの実施、実施の調査、研究
申請分野	団体指定寄附(分野指定寄附) 子ども 分野)
目的	<p>※事業がどのように対象者・利用者の利便性の向上や支援につながったかなど、事業の目的を記載してください。</p> <p>コロナ禍の状況下において、学童保育の児童の場、または個別に支援を必要とする対象児童生徒に対して、感染や衛生面の不安なく、オンライン交流の機会を作り、教育機会を提供する。</p> <p>また、コロナ禍で外部からの訪問面会が制限されている高齢者施設入所者に対しても、当協会の犬と会員が、対面が難しい時でもオンライン交流を続けることで、孤立防止支援を継続的に行う。</p>
事業実施の地域及び対象者	<p>※実施する事業内容の対象地域、対象者数について記載してください。</p> <p>香川県内の児童と家族、高齢者</p>
具体的な事業内容	<p>※実施した事業内容について、具体的に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>困難を抱える子どもたちや学童保育児童に対する犬との教育活動</b> 当協会員飼い主が犬を同伴し、動物との優しく穏やかな時間の体験を通して、前向きな気持ちを持ってもらう交流を行う。方法は、①小規模の対面、②zoom オンライン会議システム利用のリモートオンラインの二つ。特に、タブレットや動画の利用によって、オンラインを活用する方法では、多数の児童対象に、安心安全に、動物理解等の教育提供を行うことができた。</li> <li>・<b>高齢者施設に対して、オンラインによるアニマルセラピー活動</b> オンラインで、犬の活動の様子を画面越しに見たり、ハンドラーとの会話やクイズ、犬の動きに合わせて発声や拍手の行動促進をしたりすることで生まれる、双方向のやり取りから普段にない刺激を体験し、気持ちや行動の活性化を図る。離れた場所に居ても双方の気持ちのつながりが実感できた。</li> <li>・全ての活動を通して、動物愛護の精神や、動物の社会参加についての普及、啓蒙、動物による人の生活の質の向上に寄与する。</li> </ul>
事業実施の果効	<p>※事業の実施がどのように今後の法人活動の活性化や基盤強化につながるのかを具体的に記載してください。</p> <p>コロナの影響で、令和2年から始めたオンラインでの高齢者や子どもと犬との交流活動では、対面活動と同じような笑顔や反応を得ている。対面も様子をみながら小規模で復活してはいるが、これまで蓄積したオンラインのノウハウを、教育プログラム制作につなげることで、安心安全な動物介在教育を、多くの児童に提供することができた。本事業実施時に、児童にアンケートを取ったところ、2割超が「犬が苦手」であることが分かった。対面では、犬への恐怖心やアレルギーを持つ子どもにも、今後は動画やオンラインを利用して教育の機会を広げていくことが可能であると考える。</p>
備考	<p>※その他、特にPRしたいこと等があれば記載してください。</p> <p>本事業担当者(遠藤)は、香川大学大学院地域マネジメント研究科研究員として、オンライン教育プログラムの事例報告を、令和5年3月12日ヒトと動物の関係学会にて報告を行った。</p>

(別紙2)

### 事業実施のスケジュール

年 月	活動内容	対象者	参加者数
令和4年4月～ 令和5年3月	4月～11月 <b>高齢者施設に対し、セラピー犬との交流活動</b> (8月、12-3月は感染症防止の観点から先方より休止連絡) 月1回7回実施。うち、オンラインでの交流6回、対面訪問1回。 ※最終活動日(最終事業実施日)3月15日を予定していたが前日に施設から中止連絡あり。3月14日をもって事業終了日とした。	高齢者施設入居者	各回20～25名×7回 154名
	6・10・11・2月 <b>不登校生への対面訪問セラピー活動</b> 高松市教育支援センター2か所および観音寺教育支援センターへ犬と4回活動を行った。会場で、タブレットをテレビモニターに接続し、動画を利用して一部説明する機会をもった。	支援センターに通う小4～中3生	5回 46名
	8月3・10・24日 <b>夏休み中の放課後児童保育3教室オンライン教育プログラム</b> 当事業所と3教室をzoom会議システムを利用してオンラインでつなぎ、各教室にはタブレット端末をテレビに接続してモニターとし、動物介在教育プログラム45分を3回実施した。子どもの興味喚起のため、予め当協会が素材を録画し外注先にて編集完成したテーマ別動画を毎回数本、織り込んで展開した。児童アンケート分析、絵日記等による教育効果について、R5年3月11日ヒトと動物の関係学会学術大会にて事例報告発表を行った。	放課後保育児童	のべ111名(10～15名×3回×3教室)
	2月 <b>オンライン教育プログラムを活用した活動</b> 丸亀市放課後教室1か所より要望があり、動画・タブレットを利用した教育プログラムを実施した。	放課後保育児童	約50名
	2月12日 <b>困難を抱える子ども支援</b> 香川県社会福祉協議会等を通じて、登録されている子ども支援の場へ周知、申込の有った家族単位での個別交流を実施した。動画・タブレット端末を利用した。	ヒトと動物の関係学会員	15名
	4月～3月 オンラインを利用した活動についての広報を、当協会ホームページやブログ、開設したSNSを利用して発信し、広報した。 9月 既存の協会パンフレット内へ、オンライン事業の取り組みを追加し、改訂、3千部の印刷をした。対象者へ配布、または市民活動センターマルタス等に配架して広報した。	犬と交流したい一般家庭	4家族12名
		一般県民	
		一般県民	

(注1)いつ、どこで、何を、どのように、どのような体制で実施したかなどを、詳細に記載してください。

(注2)企画、準備、成果確認や実施後の振り返りなども含めて記載してください。

(注3)対象者や参加者数など事業の規模等が分かるように記載してください。

(別紙3)

## 収 支 精 算 書

【収入】

(単位：円)

項 目	金額	説 明
NPO基金補助金額	★ 841,431	
自己資金計	378,712	①+②+③+④
① 参加料収入	0	
② 会費等	145,000	
③ 寄附金等	126,841	
④ その他	106,871	※内容を具体的に記載してください。 前年度繰越金より
その他助成金等収入計	960,000	①+②+③
① 補助金収入	0	
⑤ 委託金収入	500,000	丸亀市市民提案型協働事業（備品類は 含まない。丸亀市事業に係る人件費・ 消耗品を計上）
⑥ その他	460,000	※内容を具体的に記載してください。 香川県共同募金会助成金（活動・交通 費の使途で主に活用）
その他資金収入	0	
合 計	2,180,143	

(注) その他助成金等収入はNPO基金以外の助成金等を受ける予定がある場合に記載してください。

【支出】

項 目	金額	うちNPO基金 補助金充当額	説 明 (使途、積算根拠等)
① 賃金、報償費	815,625	0	丸亀市委託事業費・県共同募金 会・自己資金利用。協会内支払 い規程（事務作業時給 850 円、 犬同伴 3000 円、現場活動 2000 円等）利用。
② 旅費	100,018	0	同上。
③ 消耗品費	145,507	98,574	事務所内 Wi-Fi 中継器 2 台 66,300 円、タブレットスタンド 3 台 32,274 円（予算申請した接 続配線等は丸亀市に計上済）、
④ 印刷製本費	61,789	23,650	協会パンフレット 3 千部等
⑦ 通信運搬費、手 数料	94,579	7,700	Wi-Fi 機器の設置料 7700 円他
⑧ 委託料	351,030	275,000	オンライン教育プログラムの動 画 11 本制作委託費他

⑨ 賃料及び賃借料	109,666	0	予算申請の zoom 契約・機器のリース・会場賃借料の一部・衛生用品等は丸亀市・県共同募金会等で計上。
⑨備品購入費	397,300	397,300	ノートパソコン 1 台 112,900 円、タブレット 3 台 284,400 円
⑩その他経費	104,629	39,207	タブレット 3 台購入時セット保証料 (7/24 月分 14,245 円)、犬との活動にかかる損害保険料 (R3 支払 8 カ月分 7,706 円 + R4 支払 4 か月分 4,026 円 = 11,732 円) 協会ホームページ年間管理料 13,230 円他
合 計	2,180,143	★ 841,431	

★の金額は一致するようにしてください。

(注) 補助申請事業についての収支精算額を記入してください。